踏んだり、蹴ったり 紛争がうらめしい

ストに嘆げく駿河台商店街

物騒で、こわくて…

閉店寸前とマージャン屋

◇……昨年六月の日大ストを皮きりに〝学生街〟神田には学園ストの嵐が吹き荒れた。学生相手に商売をしてきた神田界……◇

◇……隣の商店街は、この余波をまともに受けて軒なみ売り上げ減少の憂き目に合い、特にこの七・八月は夏休みとい……◇

◇……う追い打ちも来て〝踏んだり、蹴ったり〟（某商店主談）というところ。本紙では打ち続く学園スト下の駿河台を……◇

◇……ルポして商店街の状況を探ってみた。（金成記者）……◇

神田界隈で一番早くストに入ったのは日大で昨年の六月。続いて中大も昨年の十二月にストに突入した。また、本学もこの六月にストに入り、実に一年以上もこの界隈はストに明け暮れていることになる。

ストの影響を聞いてみると、ほとんどの商店が一様に口をそろえて「売り上げが落ちた」「物騒でおちつかない」と語っている。

中でも一番深刻なのは学生が客の大半を占めるマージャン屋さん神保町の「千石」の御主人は次のように語った。「イヤー、参りましたよ。六月の末から客の入りはサッパリ。もう閉店寸前です」。同店は本学の学生が九割を占めているとのことで本学のスト突入、さらに夏休みという重なる〝不幸〟で動きがとれないという。

さらに駿河台のド真ん中にあるオフロ屋さん―紅梅湯―の御主人は、「ウチは機動隊が出動すると客足がガタッとおちるんですよ」と語っている。一・一八、一九の東大闘争の時は何とお客はゼロ。「このごろはちょっとしたデモにもすぐ機動隊が出ますからねー。頭が痛いです」。

ジャズ喫茶「響」の支配人も売り上げが三割から四割程度落ちたと前置きして次のように語ってくれた。「紛争と夏休みが重なって駿河台周辺はこの数カ月大打撃です。特に明治のストは痛いですよ何しろ明治の学生さんはお金持ちだから」――。

紛争が〝死活〟の問題につながるという店も多く、みんな真剣にコトの成りゆきに注目しているようだ。

さらにこわいのが機動隊と学生の衝突。その度に催涙ガスで二・三日は目が痛い。しかも学生の投石でカンバンがこわされたり、ウインドーガラスがメチャメチャになったり、そのために特製のシャッターを取りつけたりで、かなりの出費がかさむという。そんな費用も自分持ち。区も都も学校も一切めんどうはみてくれない。町内会長の坂口熊治さん（ちが屋）はこう嘆げく。「駿河台の明治だといっても、学校がストライキでは商売はあがったりだし、おまけに店をこわされるんじゃ頭に来ますよ。一日も早く解決して欲しいものです」。

ホクホク組も少くない

しかし紛争のおかげでトクをしたところも少くない。外神田のカセコヘルメット店の御主人は「ヘルメットは月一〇〇〇個前後、旗は一〇〇本前後売れています。明治では学苑会さんがオトクイでしてネェ」とホクホク顔。

日大病院でも機動隊が出動するたびに外来患者が急増するそうである。「外来患者は殴られた学生・市民、投石を受けた機動隊員などです。しかし治療費をもってこない人も多いんですよ」とは同病院外来係の話である。

その他に貸フトン屋、大学当局などに事務所を提供する貸事務所タテカン・ゲバ棒などを売る材木屋などもホクホク組。

竜城学生に食料を供給する「夜鳴きそば屋」や「おでん屋」も忘れられない存在である。本校学館前で営業中のヤタイのそば屋さんは関西弁で次のようにまくしたてた。「えらくもうかりマッセー。つい先だってまでは早稲田にいたんヤケド、明治の方が安全ヤからこっちに来たんヤ」――紛争を求めてさまよう商魂たくましき〝渡り鳥〟である。但し、私服警官に間違われることもしばしばあるとのこと。

また、売り上げは落ちたが以外な面で紛争の恩恵に預かった店もある。

茗渓堂書店の御主人は次のように語っていた。「確かに売り上げは落ちているんですけど、安保や沖縄、大学などに関する本はここ数ケ月間急激に伸びてます。雑誌では『情況』というのが売れており、大いに助かってます。これも紛争のせいなのでしょうネー」。

名曲喫茶「丘」の支配人は「三分の一ぐらい客が減りました」と嘆きながらも、「その反面、クラス・サークル単位の討論会や、打ち合わせなどのための団体客が増えたんですよ」とニガ笑い。

どちらもこの紛争は〝痛し、かゆし〟といったところ。茗渓堂の御主人もこう言って笑っていた。「これは学生街の〝宿命〟みたいなもので、しょうがないんですよ」。

日大が封鎖を解除され、中大も九月に入って全学の授業が再開された。さらに本学にも機動隊導入のうわさが乱れとび、駿河台周辺の事態は目下流動的。夏休み明けのノンポリ学生の登場とともに商店街は今後、徐々に活気を取りもどしていきそうな気配を見せている。